民報 藤島

2024年3月31日

第1441号

編集発行
日本共産党藤島支部

生活相談所
加藤鉱一（宝徳）
TEL0235-64-3941
携帯090-8929-4221
ＨＰは「藤島 加藤鉱一」と検索で入力を。

発行経費にカンパをお願いしています。民報配布者にご連絡下さい
（月２００円程度）
3月 30人 25,060円
2月 30人 40,470円

パブコメで、「小中一貫」計画は策定せず
藤島で2択迫る保護者アンケート

鶴岡市教育委員会の「鶴岡型小中一貫教育基本計画（案）」に、パブリックコメントで反対や異論が多かったことから、行政計画としては策定しないとしました。

しかし、いくら反対があっても、市教委は、小中一貫教育を進める姿勢です。

藤島地域では、保護者アンケート第2弾が実施され、義務教育学校を強行する流れは止まりません。

98件が反対・異論

市教育委員会は、「鶴岡型小中一貫教育基本計画（案）」のパブリックコメントを、1月29日から2月9日まで12日間実施し、短期間に29人から102件が提出されました。

そのうち、賛同する意見は4件で、反対や異論が98件と96％を占めました。

パブコメの意見を受け、21日の市教委3月定例会議では、「鶴岡型小中一貫教育について」の報告で、行政計画としては策定せず、小中連携を深めるとしました（左文書）。

撤回の意思見えず

パブコメで、反対や異論が続出したにも関わらず、文書から撤回する意思は見えません。

同文書では、「小中一貫校の整備が行われる場合には、法令に基づいて手続きを進める」と明記しています。

3月29日締め切りの保護者アンケートが行われ、「藤島地域教育振興会議」の提言、「すべての小学校と中学校を再編統合し、施設一体型の小中一貫校（義務教育学校）整備」に賛成か、反対かの2択を迫っています。

小中一貫教育の「可否」や、地域への影響は考えず、わずか1週間で答を求めています。

振興会議で「可否」の協議は無し

藤島地域教育振興会議では、小中一貫教育の「可否」は協議されませんでした。

令和7年度から全市で「鶴岡型小中一貫教育」実施を前提にした協議でした。

協議の中心課題は、①施設一体型、②併設型、③現状のまま、のどれを選ぶかでした。

市教委から「施設一体型以外は小中一貫教育の効果が薄い」と説明されれば、①に意見が集約されるのは、当然の流れでした。

方向性ありきで反対できなかった

2月11日の渡前地区説明会や、3月9日の東栄地区では、教育振興会議の結論に意見が続出しました。

23日の長沼地区説明会では、「藤島に小学校、中学校の名称の施設は無くなるのか」の質問、26日の藤島地区では、「振興会議の委員は、方向性ありきで反対できなかったと言っていた」、「小中学校が一つになるような少子化の地域には住めない」などの意見が出されました。

少子化の「悪循環」避ける

鶴岡市は、複式学級の解消を理由に、小学校の学校統廃合（40→26）を進めてきました。

その結果、廃校となった地域は通学が不便となり、少子化が進み、地域の活力は低下してきました。

少子化と学校統廃合、地域衰退、さらなる少子化の「悪循環」は避けなければなりません。

クラスの人数が少なくなれば、一人ひとりに目が行き届き、いじめやけんかもなくなり、学力の向上が図られることは、多くの実証研究で明らかです。

学校統廃合の一貫校は止めて、藤島中学校の早期改築に全力をあげるべきでしょう。

鶴岡型小中一貫教育について

【R6.3.21　学校教育課】

鶴岡型小中一貫教育の取組については、パブリックコメントに供した行政計画としては策定せず、教育長から各小中学校長に対し、小中連携に係る中学校区単位での検討、取組をさらに深めることを求める通知とするもの。

1　通知の要旨

パブリックコメント（次項参照）に添付した計画案の内容については、修正を加えた上で、通知に添付する説明文書とする。

主な修正としては、令和６年３月鶴岡市議会定例会における議論及びパブリックコメントを踏まえ、鶴岡型小中一貫教育は、これまで実施してきた小中連携をさらに深めるものであり、各中学校ブロック単位で検討と取組を行い、地域性を再認識し、地域の特長を生かした特色ある学校づくりを基本とすることを明記する。

なお、小中併設型ないし一体型の小中一貫校の整備が行われる場合には、法令に基づいて手続きを進めるとともに、その学校整備計画（仮称）を策定する。

2　パブリックコメントへの対応

先に実施したパブリックコメントについては、市要綱に従い、概要といただいた意見への対応状況を公表する。

公表の際には、行政計画として策定しないことも付記する。

3　手続き

通知は、本定例教育委員会での意見を踏まえ、教育長が決裁し、施行する。

これに係る手続等は、以下を予定している。

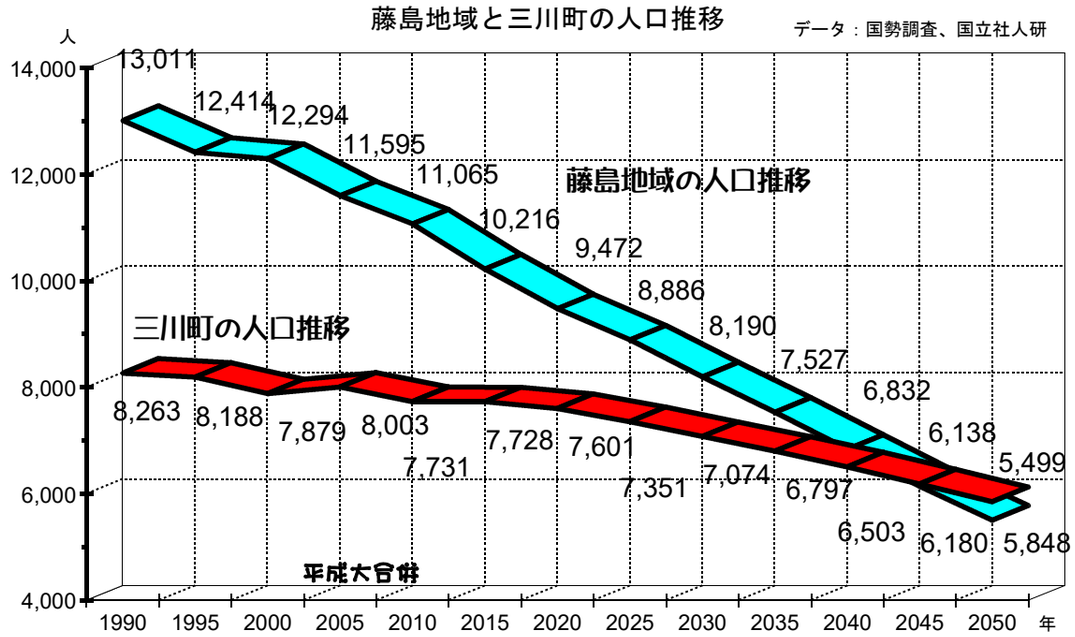
・パブリックコメント結果の公表

本定例教育委員会における意見について、必要なものについては、市の考え方等に反映させる。

・通知の決裁、市内小中学校への通知

年度末をめどに、教育長決裁の上、市内各小中学校に通知する。

藤島地域の人口予測
20年後に三川町と逆転



3月13日に開かれた藤島地域振興懇談会に、藤島地域振興計画案が示され、その中に、藤島地域の人口予測のデータが掲載されました。

そのデータと、三川町の国立社人研のデータを比較してみました（上グラフ）。

合併前の藤島町は約1万2000人で、三川町の約8000人の1・5倍の人口でした。

平成大合併の影響で、約20年後の2045年には人口が逆転します。

小中一貫校を選択すれば、もっと早く逆転することが必至です。

藤島の面積63・22㎢は、三川町の面積33・22㎢の約2倍でありながら、人口逆転はショックです。

「自立」の思想を取り戻し、地域コミュニティの活性化を再構築する必要があります。

藤島小学校のスクールバス冬季乗車の要望が実現

市教育委員会の3月定例会議が21日開かれ、「鶴岡市スクールバスの運行管理に関する規則」の一部改正が提案され、可決されました。

別表第2号の表「冬季の項」中、「藤島小学校」「士郡、下中野目、野田目、越後京田、藤岡」が加えられました。

藤島地区町内会長会から要望書が提出され、少子化で空き座席があり、夏季の熱中症対策も鑑み、実現となりました。

東田川史跡物語
調査・研究から『藤島町の石造文化』を読む

青山　崇

まず、今回調査以前の『駐蠻之碑』調査研究の到達点は、『藤島町の石造文化財』（町教育委員会：1995（平成7）年発行）に尽きるので引用する。

「特記すべきは藤島町の旧郡役所に建立されている「明治天皇巡幸記念碑」である。

庄内一円にも、清川、藤島、鶴岡、押切、酒田、新堀、余目、廻館、狩川に建立するが、すべて標柱的（左写真：「明治天皇横山御小休所」碑）で、年代も大正・昭和が多い。

それに比し、建立年月は明治18年（1885）4月となっており、篆額熾仁親王（勲位・陸軍大将）の筆跡である。

更に碑文は、当時の古事来歴が漢文で細かに刻まれている唯一の碑である。

その主な内容は、①巡幸の従者としての付き人、②経路と御宿泊御休所と月日、③天皇一行への閲覧・供覧の催物（猿楽等賜金）、賜金の金額、受賜者とその事由、④主な奉迎者と奉迎状況。

明治14年9月（1881年）が彷彿と浮ぶ貴重な碑文である。

また、巡幸の折、ご昼食の一切の賄いをしたという記念碑（左写真）が、大洞寺（上町）の木陰に静かに立っている。」

「明治天皇御小休所」碑
（三川町横山）

大洞寺（上町）の記念碑

きびちょ

3・13重税反対

今年の3・13重税反対全国統一行動は、自民党の裏金疑惑の怒りが沸騰する下で行われた。鶴岡の行動は、勤労者会館で講演・集会の後、デモ行進をしながら集団申告に税務署と市役所に向かった。

▲俺の申告は、毎年申告書に名前が入って届くんだ。年金に農業と田3反歩を委託した収入、即ち不動産所得を申告しろというもの。

▲農業と言っても、畑と減反で苗代を畑にしたもので、収穫物は自家用だから毎年赤字申告なんダワ。これから生命保険と医療費を控除すれば、引かれていた国税は返ってくるという事。皆さんも、なるべく申告して税金を少なくしたほうがいいです。特に国税は、軍事費になっているかも知れないからサ。

▲毎年物価が上がって暮らしが容易でない状況なので、年金の収入額を令和になってからの分、並べてみたんだ。結果、令和2年は1年から4247円増えていたが、3年は2年と同額で、4年は3年より7612円減っていたんだよ。社会保険料は逆に2万900円増えていた。どういう事だったんだ。

▲5年はというと2万7834円増えていた。増えたと言っても年額なんだから月2300円増とはどんな計算だったのかネ～。結局5年間では、2万4470円しか上がってなかったという事だ。だから物価高が気になるわけですヨ。

▲去年の物価上昇を政府発表は、3・2％。これをマクロスライド発動で下げて2・7％引き上げると発表した年金。今年は何円になるのかナ。（石川）